



港町笠岡の繁栄を伝える遺産

笠岡港の力石 附沖仲仕の法被・禪



指定区分	県指定重要有形民俗文化財
読みかた	かさおかこうのちからいし つけたりはまなかしのはっぴ・ふんどし
所在地	笠岡市笠岡(笠岡市立郷土館)
指定年月日	昭和58年4月8日
解説	笠岡港の東浜・西浜の浜仲仕(はまなかし)が身体を鍛えたり力技を競っていたもので、花崗岩製で97kgから206kgまでのものがあり、「力石」「要石」等の陰刻があるものもみられる。浜仲仕の着用していた法被(はっぴ)2着、禪(ふんどし)2本とともに保存されている。
アクセス方法	JR笠岡駅から徒歩15分
公開状況	【笠岡市立郷土館】開館:9~17時 / 休館:月曜日・祝日の翌日・年末年始 / 有料 / 問:0865-69-2155
設備	駐車場  トイレ 
備考	県下では、江戸時代から明治にかけて、若者の間で「力石」と呼ぶ石を持ち上げて力技を競い合う風習があり、特に笠岡付近では盛んに行われていました。

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要有形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	笠岡港の力石 附沖仲仕の法被・禪
よみかた	かさおかこうのちからいし つけたりはまな かしのはっぴ・ふんどし
しょざいち (所在地)	笠岡市笠岡(笠岡市立郷土館)
していたひ (指定した日)	昭和58年4月8日
せつめい	江戸時代(えど)から明治(めいじ)の時代 (じだい)にかけて、若者(わかもの)のあ いだで行なわれていた力比べ(ちからくら べ)につかっていた石です。花崗岩(かこう がん)でできていて、軽(かる)いものでも 97キログラム、重(おも)いものは206キロ グラムもあります。